

新任教頭研修「職能開発演習」<経緯>

<企画の趣旨>

2018年、教頭試験受験前の教職員(主幹教諭および校長推薦者)を対象に「スクールリーダー養成研修(学校管理職養成研修)」を岐阜県教育委員会と協働して立ち上げた。従来、各市町村校長会主催や有志の勉強会という形で実施されていた管理職登用への学びの場に加え、ここでは学び得ることができなかった理論知を中心とした学びの機会を新たに創り出した。

2019年、上記「養成研修:スクールリーダー養成研修(学校管理職養成研修)」に加え、その内容とリンクさせた「育成研修:新任教頭研修」を企画することとした。とりわけ、この研修ではそれまでの実践交流会の性格から離れ、学校が抱えている課題の解決に向けて教頭としての見方・考え方や思考の仕方を「演習」を通して身に付けることで勤務校での課題解決への動きを具体的に創り出すことを目指した。

<対象・内容等>

対象 県内小・中・義学校の新任教頭

(受講者 2019年:140名、2020年:135名、2021年:124名、2022年:123名)

場所 県内6教育事務所(従来からある教育事務所主催の研修を活用)

内容 職能開発演習(100分)・・・自校の問題点を抽出し、実効性ある改善策を考える。

(概要は別紙「新任教頭研修概要」を参照)

2019年 受講者をいくつかのグループに分け、グループ毎にテーマを設定、各グループに大学教員がファシリテーターとして付く。テーマは事前調査から浮かび上がってきた働き方改革、いじめ指導、職員指導。 [<受講者満足度平均 8.6>](#)

2020年 コロナ禍の影響もありグループ協議を無くし、テーマも「学校におけるコロナ対策」とし、オンラインやスクール形式で実施、講師も大学教員1名で実施。

[<受講者満足度平均 9.1>](#)

2021年 引き続きテーマは「学校におけるコロナ対策」とし、グループ協議を復活、各ステージで講師による重要ポイント等の解説を新たに入れ込む。講師は大学教員と各教育事務所の指導主事とのTTで実施。

[<受講者満足度平均 9.0>](#)

2022年 「指導マニュアル」を作成し、それをもとに各教育事務所での単独開催。「学校におけるコロナ対策」以外にも「働き方改革」、「困った・おかしいと言える学校づくり」など新たなテーマが設定された。

[<受講者満足度平均 9.0>](#)

現在に至る

*受講者満足度評価は10点満点

新任教頭研修（職能開発演習）【概要】

職能開発演習における指導のポイント

問題点(問題の析出・確認) 勤務校で起きている事実、問題の背景にある根本的な課題を認識する	問題対応(改善策の構想) 問題の背景にある根本な課題への解決策を考える	改善策(実行プラン) 勤務校の教頭として実現可能な解決策を考える
<p>【task】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間内に思いつく限りの問題点をワークシートに書き出す(個人作業) ・グループで交流、守秘義務を徹底し、具体的な状況を語る(グループ活動) ・講師が問題点を分類する <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類することの意味を解説する。 	<p>【task】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類した問題点に対して、制限時間内に思いつく限りの改善策をワークシートに書き出す(個人作業) ・グループで交流しながら助言し合い解決策の視野を広げる。(グループ活動) ・講師が改善策を分類する <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教頭の職務を想定し、管理面、教育指導面、組織面で分類し、その意味を解説する。 	<p>【task】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類した改善策に対して、勤務校の教頭として実現可能な解決策を1つ選び、それについて、各学校の職員構成やこれまでの教育活動を踏まえ、誰が、いつまでに、何を、どのようにするか具体化する。(個人作業後にグループ交流で助言し合う) <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容を描き出しアクションを起こすことが最優先。 ・理論を交えたまとめ

【ねらい】

学校が抱える課題の解決に向けて、管理職（教頭）としての見方や考え方、思考の仕方を「演習」を通して身に付けることを通し、勤務校での課題改善の動きを創り出す。

【学習活動】 講師：進行役1名、解説役1名 100分

- ① 導入（7分程度）
 - ・演習の位置付け、教頭の行動様式について
- ② 演習（80分程度） 各ステージのポイント後述
 - ・問題点抽出（交流・解説）
 - ・改善策構想（交流・解説）
 - ・実現可能な改善策と実行プランの構築（交流）
- ③ まとめ（10分程度）
 - 理論解説、受講者の今後のアクションについての動機付け
- ④ 諸連絡等（アンケート）

【出口の目標】

- ・自校で生じている諸問題の捉え方と解決に向かう際の思考の仕方を体験し理解する
- ・自校の問題に対して具体的な解決への実行プランを描き出すとともに課題解決実践への確かな意欲をもつ

【準備】

- ・ワークシート
- ・受講者を5人程度のグループに編成
(可能な限り学校規模で編成)
- ・付箋(小)

【学習環境】

- ・スクール形式
(オンライン可、

その場合はグループ協議用に事前にブレイクアウトルームの設定)

- ・交流時は事前に編成をしたグループで交流(司会者も決めておく)

【その他】

- ・演習の展開にメリハリを付けるために講師は2名(進行役・解説役)が望ましいが、1名でも可能である。

問題点(問題の析出・確認)	問題対応(改善策の構想)	改善策(実行プラン)
問題点の抽出欄(付箋にひとつ書き込んで貼っていく)	改善策の欄(付箋にひとつ書き込んで貼って)	ひとつの改善策を選んで具体化する

演習ポイント

① 問題点抽出

- ・制限時間内にできるだけ多くの問題点を挙げさせる(付箋)
- ・グループ内で共有、その後に自校の問題点の類型化作業
解説⇒問題点を類型化することを通して、その現象が起きている本質的な問題は
何を明らかにする(俯瞰的に見つめる)

② 改善策構想

- ・行政等に望むことも含め挙げる(学校独自でも実施できる可能性を探る)
- ・改善策をグループで共有、その後に講師の指示に従って類型化
解説⇒改善策を「指導の側面」「管理の側面」「組織活動の側面」で分類することで
アクションを起こす主体者を明確にする

③ 実現可能な改善策と実行プランの構築

- ・自校の実態を踏まえ、②で挙げた改善策の中からひとつを選び、いつまでに、誰が、
何をどのように行うのかを具体化する
- ・グループ内で発表、意見交流から計画の精度を高める